

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530013

研究課題名(和文) コモン・ロー思想の展開 - わが国の判例法学への示唆 -

研究課題名(英文) The Development of Common Law Thought: Suggestions to the Japanese System of Case Law

研究代表者

戒能 通弘 (KAINO, Michihiro)

同志社大学・法学部・教授

研究者番号：40388038

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、司法制度改革を受け、判例法の伝統を持つ英米の法思想から裁判官の役割について示唆を得ることができないか検討した。また、判例法に批判的なベンサムの法思想も検討している。英米の法思想の単著を2013年度に刊行し、2014年度にはベンサムに関する共編著を刊行した。論文は、立法の思想の分析、裁判をめぐる現代の英米の議論の検討、ベンサムの法思想を検討したものなど、計7本、執筆した。同様のテーマで、国際学会4回を含む、計8回の学会報告を行った。なお、コモン・ロー思想、ベンサムの法思想の第一人者のロバーン教授、ポステマ教授などを招聘し、2014年度と2015年度に同志社大でセミナーを開催した。

研究成果の概要(英文)：This project studies the Anglo-American tradition of case law and seeks some suggestions for the Japanese legal system after the reforms of the judicial system. It also focuses on Bentham who criticized the common law. A book on Anglo-American legal thought was published in 2013 and a book on Bentham (co-edited) was published in 2014. I also wrote and published seven articles on such topics as legal thought on legislation, contemporary discussions on judge law and Bentham's legal thought. And I presented eight papers on the similar topics at Conferences including four international ones. I also invited the leading professors on the history of common law thought and Bentham's legal thought such as Professor Lobban and Professor Postema to give seminars at Doshisha University in the August of 2014 and in the March of 2016.

研究分野：英米法思想史

キーワード：コモン・ロー 判例法 法思想 立法 ベンサム

1. 研究開始当初の背景

司法制度改革による、法科大学院の設立、裁判員制度の開始など、わが国の司法は大きく変わり、裁判の役割も変わりつつある。裁判の役割が大きくなり、立法だけでなく、裁判にも法形成の役割が委ねられることが増えるのではないかとこの背景から、判例法の長い伝統を持つ英米の法思想の研究を開始した。

2. 研究の目的

上記の背景から、今後の裁判の役割が、紛争の解決のみでなく、ルール創造を担うことも十分考えられる。ただ、立法権が国会の専権とされているわが国において、裁判所のルール創造を正統化することは容易ではない。国会主権を前提としつつ、判例法の伝統を持つイギリス、さらには、判例法によるルール創造が幅広く行われているアメリカの法思想を、そのような観点から検討することは大きな意義があると考えた。さらに、バランスのある研究になるように、判例法、コモン・ローに対する苛烈な批判者であり、法典化論者であったベンサムも検討した。

3. 研究の方法

本研究では、法思想史的研究を中心に据えた。本研究の開始までに、イギリスについては17世紀のクックから20世紀のサーモンドまで、また、アメリカについては、ホームズ、パウンド、ルウェリンの、判例法をめぐる思想を検討していた。本研究では、判例法の正統性、またはその問題点につき、以上の研究をさらに精緻化するという試みをした。また、現代の英米でも、判例法を基礎づけようとする議論は盛んであるため、それらの分析も試みている。さらに、すでに著書を公刊するなど研究を進めていたベンサムについても、その判例法、コモン・ローに対する批判を検討することで、判例法のマイナス面についても明らかにすることを試みた。

研究の具体的な方法としては、上述のテーマについて著書、論文などを公刊することはもちろん、国際学会を含めた学会報告でも、積極的に成果を報告し、海外の研究者からの示唆を得ることも試みた。また、英米法思想史、ベンサムの法思想の研究をリードする英米の研究者を招聘し、2014年度と2016年度にセミナーを開催した。さらに、ロンドン大学のベンサム・プロジェクトで資料収集も行った。

4. 研究成果

(1) 著書

判例法、コモン・ローについては、2013年度に単著を公刊している。また、ベンサムについても、2014年度に、深貝保則との共編で研究論文集を公刊した。

(2) 論文

上記の判例法、コモン・ローの単著の公刊後、イギリスとアメリカの判例法の思想史を比

較、対照した論文、それから現代英米の判例法、コモン・ローの理論を検討した論文を執筆、公刊した。また、判例法ではなく、立法に関するイギリスの法思想を検討した論文も公刊している。ベンサムに関しては、コモン・ローとベンサムの関係を分析した論文をパレルモ大学の紀要、さらには上述のベンサムについての共編著にて公刊した。この他に、法の支配に関する論文も執筆している。なお、ベンサム・プロジェクトの紀要に、ベンサムの法思想の著作についての書評も掲載してもらったほか、英米の法思想に関する著作についての書評を三本、執筆、公刊している。イギリス哲学学会の学会誌に、英米でのイギリスの法思想の研究について、学界展望も執筆している。

以上のような研究成果を学会等で報告し、幅広く示唆を求めた。国内の学会等では計4回報告したが、英米の法思想史に関して3回、さらにベンサムについての共編著に関して報告の機会をいただいた。また、英米の法思想、ベンサムの法思想に関して、計3回の国際学会報告を行い、研究の成果に関して、あるいは今後の研究の方向性に関して、いくつかの貴重なご意見をいただいている。2015年度には、ロンドン大学ベンサム・プロジェクトのベンサム・セミナーでも報告し、ベンサムの法典化論が、明治期のわが国の法典論争でどのような役割を果たしたかも分析している。

なお、コモン・ロー思想史、ベンサムの法思想の研究をリードする海外の研究者を招いたセミナーを2014年度と2015年度に開催した。2014年度は、マイケル・ロバーン教授(ロンドン大学)、デイビッド・リーバーマン教授(カリフォルニア大学)、中国のツァイ教授(当時、鄭州大学)を招いて8月に、ベンサムの法思想についてのセミナーを開催した。また、2016年の3月には、ノースカロライナ大学のジェラルド・ポステマ教授の、ベンサムと法の支配についての計2回のセミナーを開催した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

2016年3月(査読なし)

戒能通弘

学界展望 法哲学・法思想(法思想史を担当)、日本イギリス哲学学会編『イギリス哲学研究』第39号、121-124頁

2016年2月(査読なし)

戒能通弘

立法をめぐる近代イギリスの法思想 19世紀イギリスにおける「創る法」と「成る法」、竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編『法の理論 34 特集<創る法と成る法>』(成文堂)、3-22頁

2015年11月(査読あり)
KAINO, Michihiro
Review: Xiaobo Zhai and Michael Quinn eds., Bentham's Theory of Law and Public Opinion, Cambridge University Press, 2014, pp. xi + 254, Journal of Bentham Studies, vol. 17, pp. 1-11.

2015年10月(査読なし)
戒能通弘
論争する法哲学(書評):近代アメリカ法思想の時代背景 岡寄修『レッセ・フェールとプラグマティズム法学』、日本法哲学会編『立法の法哲学 立法学の再定位(法哲学年報2014)』(有斐閣)、134-38頁

2015年4月(査読なし)
戒能通弘
(書評)小畑 俊太郎『ベンサムとイングランド国制 - 国家・教会・世論』、法制史学会編『法制史研究』64号

2014年3月(査読なし)
戒能通弘
(書評)ジョン・フォーテスキュー著、直江真一訳『自然法論』、日本イギリス哲学会編『イギリス哲学研究』37号、145-146頁

2012年11月(査読あり)
KAINO, Michihiro
Bentham's Legal Theory and the Common Law Tradition: Defining Some Key Elements of Continuity, Storia e Politica Anno -Fascicolo ,pp.291-305.

2012年9月(査読なし)
戒能通弘
コモン・ローのコンテキストとハート、ドゥオーキン、同志社法学 64 巻 3 号、453-489 頁

2012年3月(査読あり)
戒能通弘
イングランドにおける法の支配に関する「法思想史的」考察 クック、ヘイル、ブラックストーンを中心に、イギリス哲学会編『イギリス哲学研究』第35号、5-19頁

[学会発表](計8件)
2016年3月23日ロンドン

KAINO, Michihiro
Bentham in Japan (Bentham Seminar 2016 at Bentham Project, University College London 報告)

2015年8月8日横浜(崎陽軒本店会議室)
戒能通弘
『ジェレミー・ベンサムの挑戦』は何を指したのか(科学研究費補助金研究集会「日本の功利主義研究を考える:『ジェレミー・ベンサムの挑戦』(深貝保則・戒能通弘編、2015年3月)を手がかりに」報告)

2015年7月30日ワシントン
KAINO, Michihiro
The Common Law Context of Jurisprudence (The XXVII World Congress of the International Association for the

Philosophy of Law and Social Philosophy (IVR): Working Group 18 報告)

2014年11月8日京都(京都大学)
戒能通弘
立法をめぐる近代イギリスの法思想 - 19世紀を中心に(2014年度日本法哲学学会学術大会:ワークショップ「立法をめぐる法思想 - 19世紀におけるドイツとイギリスを中心にして」報告)

2014年8月20日横浜(横浜国立大学)
KAINO, Michihiro
Bentham's Pannomion and the Anglo-American Legal History (13th Conference of International Society for Utilitarian Studies: Session I-5; Common Law and / vs Pannomion 報告)

2014年5月11日大阪(大阪大学)
戒能通弘
タマナハ教授の近代アメリカ法思想史研究と Balanced Realism(2014年度日本法社会学学会学術大会:ミニシンポジウム「法社会学は法理論に独自の貢献をもたらすか?」報告)

2012年8月9日ニューヨーク
KAINO, Michihiro
Bentham's Codification Theory in the Context of Globalization (12th Conference of the International Society for Utilitarian Studies: Panel 4; Bentham 報告)

2012年6月2日京都(京都大学)
戒能通弘
近代英米法思想の展開 - ホップズ=クック論争からリアリズム法学まで - (第75回比較法学会総会:英米法部会報告)

[図書](計6件)

2016年3月
戒能通弘
「法」と法の支配 クックからダイシーまで、森村進編『法思想の水脈』(法律文化社)、42-53頁。

2015年2月
深貝保則・戒能通弘編
『ジェレミー・ベンサムの挑戦』ナカニシヤ出版

2015年2月
戒能通弘
コモン・ロー的伝統とベンサムの法理論 - 「裁判官の慣習」と「一般的慣習」の峻別によるコモン・ロー批判、深貝保則・戒能通弘編『ジェレミー・ベンサムの挑戦』(ナカニシヤ出版)、40-65頁

2015年2月
戒能通弘
グローバリゼーションとベンサム、深貝保則・戒能通弘編『ジェレミー・ベンサムの挑戦』(ナカニシヤ出版)、349-365頁

2014年2月
戒能通弘
英米の法思想とダイバーシティ、瀬川晃他著『ダイバーシティ時代の法・政治システムの

再検証』(成文堂)、161-184 頁

2013 年 2 月

戒能通弘

『近代英米法思想の展開 - ホップズ=クック論争からリアリズム法学まで - 』ミネルヴァ書房

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戒能 通弘 (KAINO, Michihiro)

同志社大学・法学部・教授

研究者番号: 40388038

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: